

●書評・本の感想文を
募集します

読書の秋、図書館では書評もしくは本の感想文を募集しています。みなさま奮ってご応募ください。

- 字数 500-600 字程度
 締切 11月12日(金)
 備考 ① 2011年1月発行予定の図書館報『淞雲』11号で掲載
 ② 図書館内で開催の読書推進キャンペーンで紹介
 方法 A) 館内にある応募用紙をカウンターに提出
 B) メール(sabisu@lib.shimane-u.ac.jp)で提出

応募してくださった全員に、図書館オリジナルグッズ「ライムシールメモ」を進呈します。

◆Contents◆

- <トピックス>
 書評・本の感想文の募集
 もう見つけた？図書館コンシェルジュ
 見つけて！初年次図書コーナー
 図書館講習会スケジュール(11-12月)
 <お薦め図書>
 『地団駄は鳥根で踏め』
 <つぶやきライム>
 見つける楽しみ・読む楽しみ

2010・第64回 読書週間
 気がつけば、もう降りる駅。
 10/27～11/9

●もう見つけた？

図書館コンシェルジュ

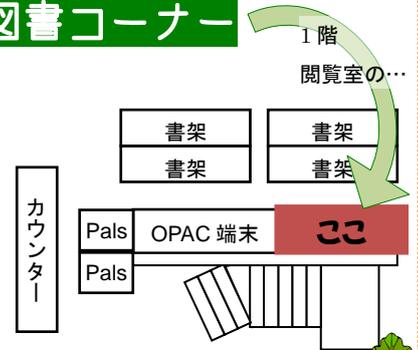


先月からデビューした、学生サポーターです。学生の図書館での疑問・質問の窓口になります。キャメル色のエプロンが目印です。

●見つけて！

初年次教育・授業関連図書コーナー

初年次教育やその他授業に関連する図書を、担当教員に選んでもらいました。各分野の学びの入門にピッタリな図書が集まっています。自分が受講中の授業の指定図書があるかも。まずはこのコーナーを見つけて！



●図書館リテラシー講習会スケジュール(11-12月)

初級	中級
辞書系データベース -JapanKnowledgeを使う- 日時：11月4日(木), 12月1日(水) 13:30-14:30	参考文献リストの管理 -Refworks 入門- 日時：11月8日, 11月17日 13:30-14:30
新聞記事の探し方 日時：11月5日(金), 11月19日(金) 13:30-14:30	自然科学の雑誌論文を探す -JDreamIIで英文も一括検索- 日時：11月12日(金) 13:30-14:30
日本語雑誌論文を探す -CiNiiをやさしくマスター- 日時：11月10日(水) 13:30-14:30	文系の雑誌論文を探す -Web of Scienceで海外の論文を検索- 日時：11月24日(水) 13:30-14:30

まだまだ申込み受付中です。きっと実りのあるものになるはず。事前に申込用紙をカウンターへ。



<お薦め図書>

『地団駄は島根で踏み：行って・見て・触れる《語源の旅》』

わぐりたかし 著（光文社新書；395）



タイトルのインパクトの大きさからつい手にとってしまう本は多い。本書も島根に住んでいる人なら、見た瞬間に興味をそそられるだろう。わからないことはインターネットで簡単に説明してしまうこの時代に、語源ハンターと自称する著者が日本各地へ足を運び、日常使われている言葉の誕生の背景を探り、その土地との意外な結びつきを発見する旅行ルポだ。鎌倉では「ごたごた」、愛知では「どろぼう」、石川では「ごり押し」、京都では「らちがあかない」、山形では「つづがなく」など、全部で23語、23箇所を巡っている。そんなハンターがはるばる島根にもやってきた。

地団駄を踏む―「怒りもがいて、またくやしがつて、はげしく地面を踏む。」と広辞苑にはある。肝心なその語源がどこにあるのかについては読んでのおたのしみということで…。一般的なこの意味が出雲地方で使われているものと微妙に違っていることには今まで気がつかなかった。そういえば子供の頃、もたもたと行動していると、「あんた見ちょーと、まあ〜地団駄踏むやなわあ。」と大人によく言われた。地元で生まれ育った人ならお分かりだと思うが、この場合「いらいらする」とか、「もどかしい」という感情を表している。

このような独特なニュアンスやあまり知られていない逸話などは、実際にその土地に行かないと知り得ないことが多いと思う。著者の旅も「語源を探す」という目的がキーワードとなって様々な人から助けの手を差し伸べられ、解決へと導かれている。普通の旅行ではできない経験だ。「ごたごた」している時は鎌倉へごたごたな旅など、感情に合わせて巡るのもよし、気になる言葉を見つけたら、自分オリジナルな語源を探る旅の続編を作ってみるのもおもしろそうだ。（F）

【812/W14 本館 2F 郷土】



<つづやきライム(9) ~図書館職員のメッセージリレー~>

見つける楽しみ・読む楽しみ



学生時代、図書館に入った経験は数えるほどしかありません。「新刊や文庫は買って読みたい。」と思っていたのも理由の一つですが、父親が公共図書館の職員で図書館職員の世界をしつく説いたために、かえって反発して図書館に寄りつかなかった、という理由もありました。私は専門の図書館職員ではなく、附属図書館の総務・会計を担当しています。

父親の期待を裏切って図書館司書にならなかった私ですが、今は毎日ペーパーバックを読むのが習慣になっています。高尚な内容の物を読むわけではなく、歴史小説やミステリーが大半です。なかでも現代小説は実際に本国で使われている表現が現れるので、現代英語を学ぶには格好の教材です。例えば、He managed to tear himself away from his phone conversation long enough to say, "Stop". つまり「やめる。」と言う間だけどうにか無理やり電話から離れた。」などという生き生きした言い回しが随所に現れます。TOEICの読解問題対策にも簡単な小説の類を多読することが有効といわれています。

高校時代恐る恐るペーパーバックを手にとってからずいぶん年月が経ちましたが、何冊読んでも新鮮な言い回しに出会うたびに発見する喜びを感じます。こうして「生きた英語」「生の本国」に手軽に触れることができるのがペーパーバックや映画の利点だと思っています。また、何冊読んでも、読み終わったときに充足感、達成感を感じるのはどの本も同じだと思います。最近は便利なデジタルブックも見かけますが、読んだ後あらためて手にとって内容をふりかえる時の心地よい重量感を感じるのは紙の本の特性と思っています。

また、時折図書館の書架に沿って歩いてみると「これは読んでみたい。」と思う本を見つける時があります。読書の習慣をつけるのは頭の柔軟な若い日が最適です。時には図書館をじっくり歩いてみて貴重な1冊に出会ってみませんか。（木）



（みいなちゃん）

スポーツの秋に芸術の秋、そして食欲の秋！秋ってやりたいことがたくさんあって目移りしちゃう。



（けんさくくん）

読書の秋でもあるよね。図書館で書評や本の感想文を募集してるみたいだけど、これってどう違うんだろう。



（ライム博士）

書評とは図書を批評した文章のとき。図書を客観的に評価すると同時に、その存在を読者に知らしめるものだね。感想文はその書評の一種とも捉えられていて、より主観的に読後の感想を表現した文章だよ。



（けんさくくん）

今読んでる本、もっとたくさんの人に読んでほしいから、僕は書評に挑戦してみようかな。



（みいなちゃん）

じゃあ私は、本を読んで感激した気持ちを感想文で表現しようかしら。



（ライム博士）

読書は読むだけじゃなくて、書き残す楽しみもあるってことだね。書評も感想文もいつかきっと自分の財産になるんじゃないかな。

